

# 【漁況】

## [マアジ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなり、平成12年は24万2千トン（速報値）でした。

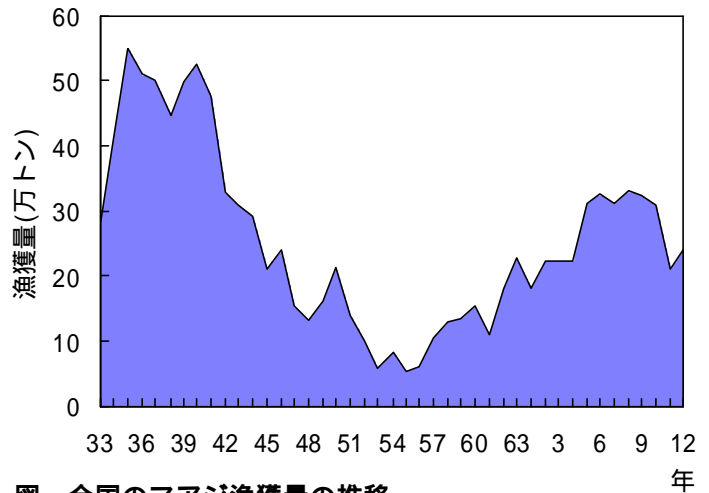


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 平成13年7～9月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、阿久根・川内・串木野沖（7～9月）、甑周辺（7・8月）に、薩南海域では、内之浦沖（7月）、佐多岬沖（7月）、開聞沖（8・9月）に漁場が形成されました。

4港計では、アジ仔・豆アジ（平成13年生まれ）主体に1,655トンの水揚げで、7・8月は、前年を上回りました。前年及び平年の131%及び43%でした。

### 3. 平成13年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、アジ仔・豆アジ（0歳魚・平成13年生まれ）で、来遊量は平年を下回り、前年を上回るでしょう。

（根 拠）

主漁獲対象となる平成13年生まれ群は、低水準ながら平成12年生まれ群より大きいと考えられます。小アジ（1歳魚・平成12年生まれ）の来遊量は、前年を上回ると考えられます。

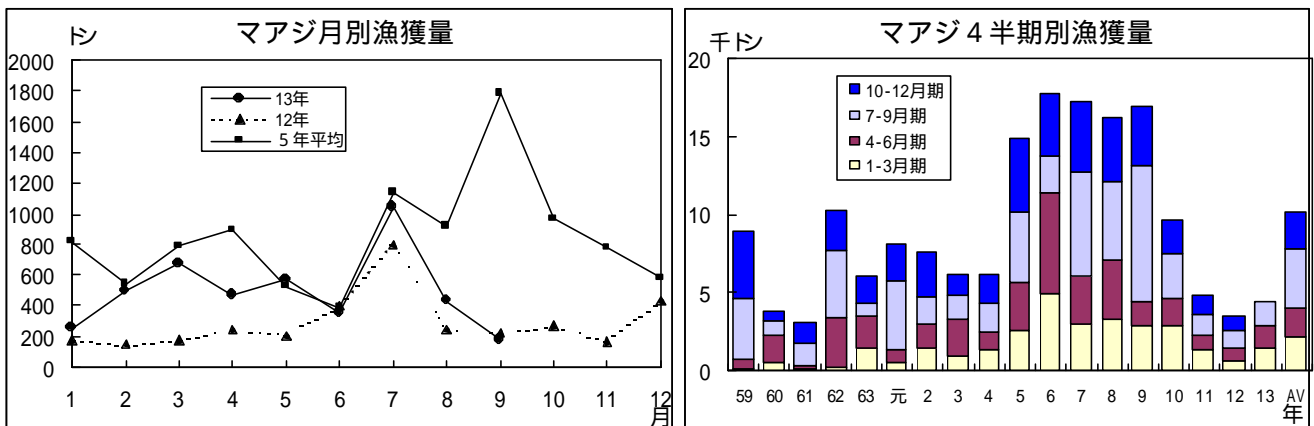


図 マアジ漁獲量変化（4港計）

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年9月は19日までの水揚げ量を使用。

## [ サバ類 ]

### 1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを一ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成12年は33万3千トン(速報値)でした。

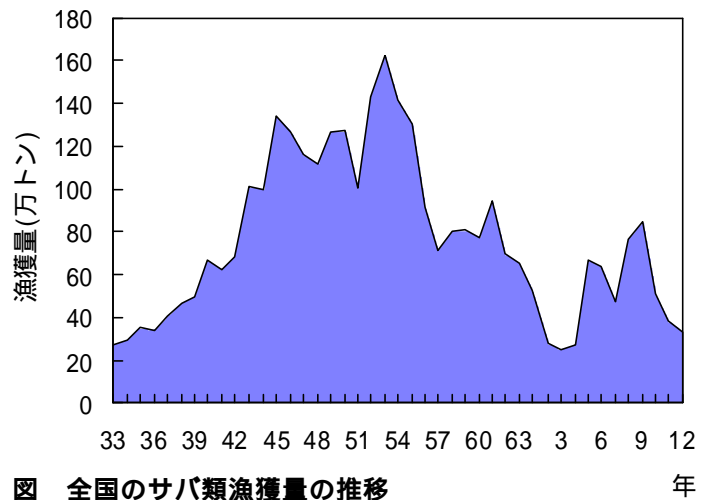


図 全国のサバ類漁獲量の推移

### 2. 平成13年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌周辺(9月)に、薩南海域では、佐多岬沖(7・8月)、馬毛島周辺(7月)、内之浦沖(7月)、開聞沖(9月)等に小規模な漁場が形成されました。

4港計では、豆サバ(平成13年生まれ)主体に384トンの水揚げがあり、すべての月で前年・平年を下回り、低調な漁模様となりました。前年及び平年の15%及び12%でした。

### 3. 平成13年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は豆サバ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根 拠)

平成13年生まれ群・平成12年生まれ群ともに、加入は低水準と考えられます。

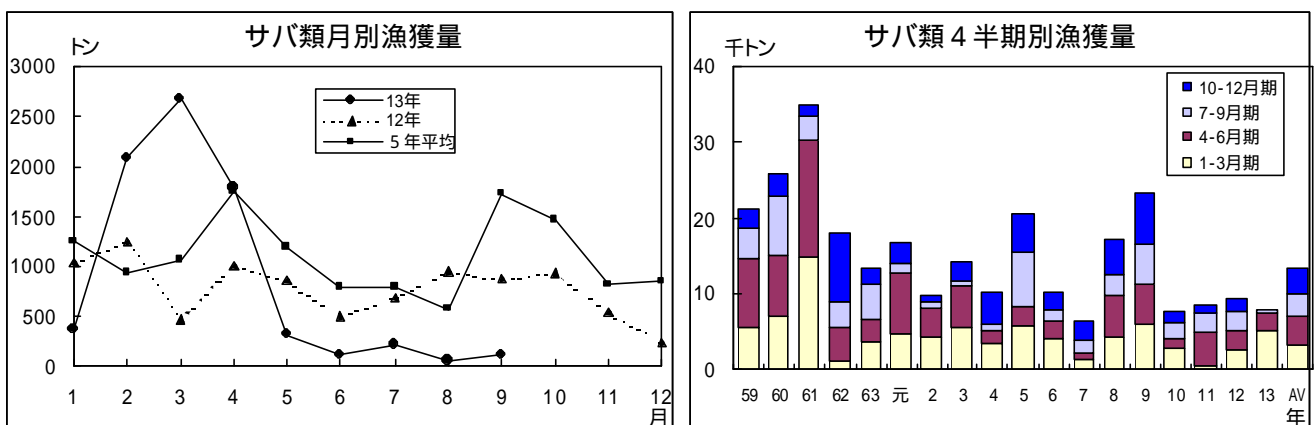


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8～12年)の平均値、平成13年9月は19日までの水揚げ量を使用。

# [マイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなり、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年は35万1千トン、平成12年は15万8千トン(速報値)でした。

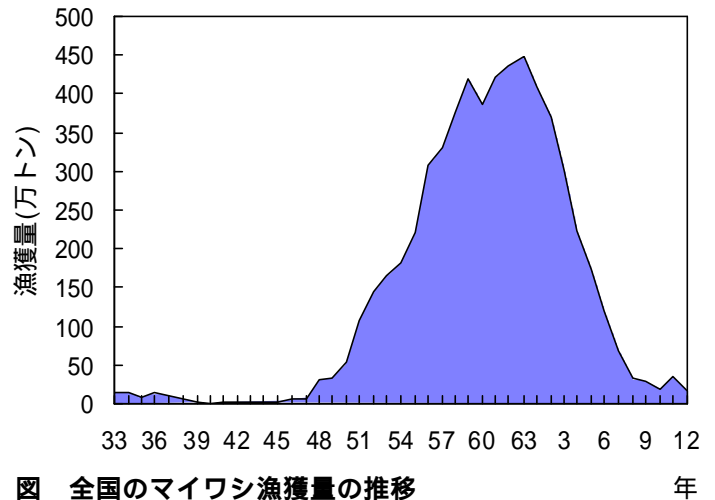


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成13年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

薩南海域では、内之浦沖(7月)でややまとまった漁獲がありました。

4港計では、92.8トンで前年及び平年の137%及び21%でした。

## 3. 平成13年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽イワシ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年上回るでしょう。

(根拠)

マイワシの資源状態は低水準にありますが、前期の漁獲状況からある程度の漁獲は見込まれると考えられます。

薩南海域では、棒受網や定置網で前年を上回る漁獲が見られています。

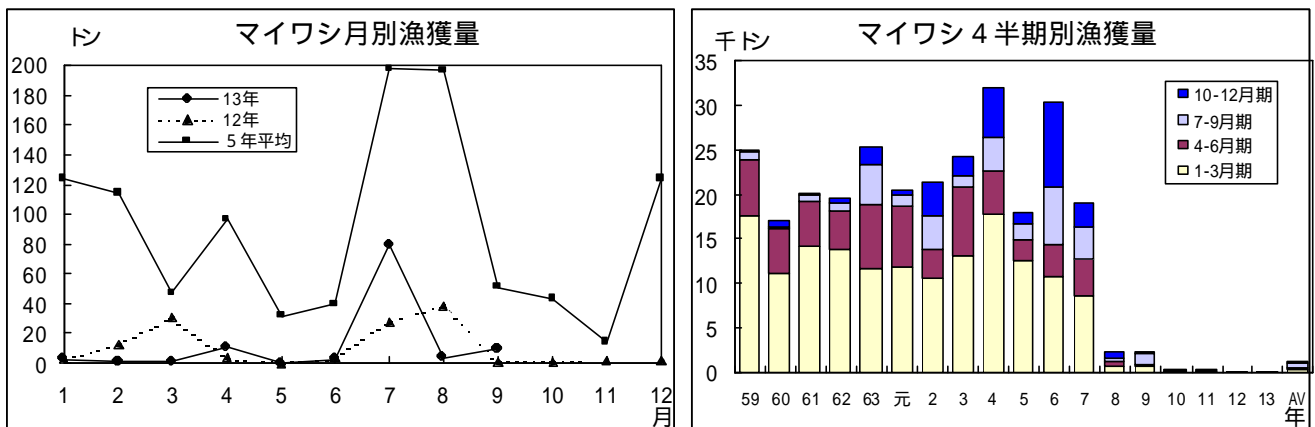


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年9月は19日までの水揚量を使用。

# [ウルメイワシ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成11年は2万9千トン、平成12年は2万6千トン(速報値)でした。

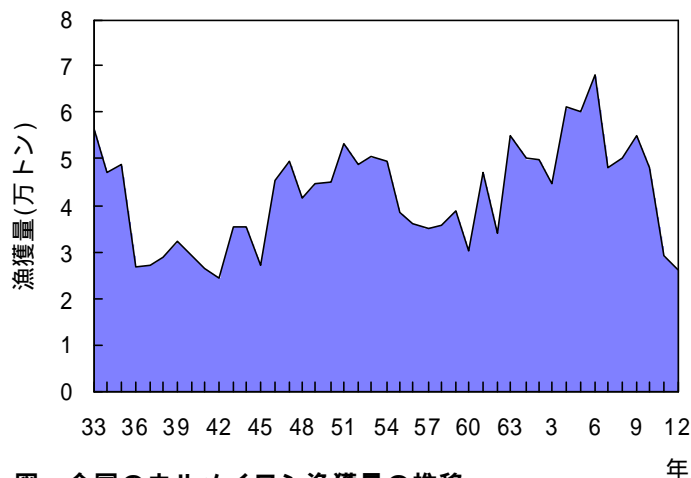


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成13年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕島周辺(7～9月)、長島沖(7月)、串木野沖(7月)に、薩南海域では、佐多岬沖(8月)、開聞・枕崎沖(9月)等で漁獲がありました。

4港計では、1,290トンで、7月は前年・平年を上回り、前年及び平年の400%及び103%でした。

## 3. 平成13年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽ウルメ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は平年を下回り、前年を上回るでしょう。

(根拠)

前期の漁獲状況から主漁獲対象となる平成13年生まれ群は高水準と考えられます。

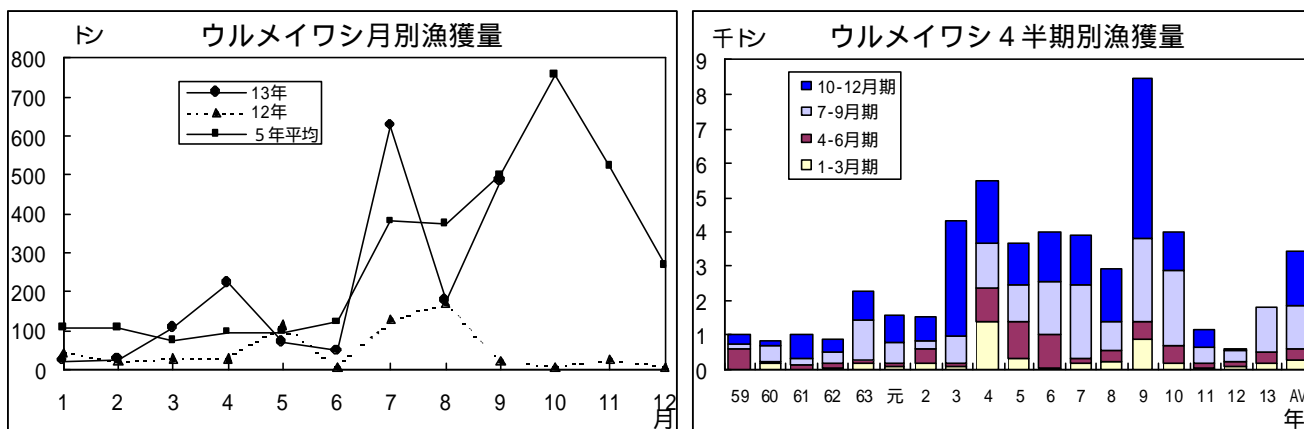


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8～12年)の平均値、平成13年9月は19日までの水揚量を使用。

# [ カタクチイワシ ]

## 1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。平成12年は37万トン(速報値)でした。

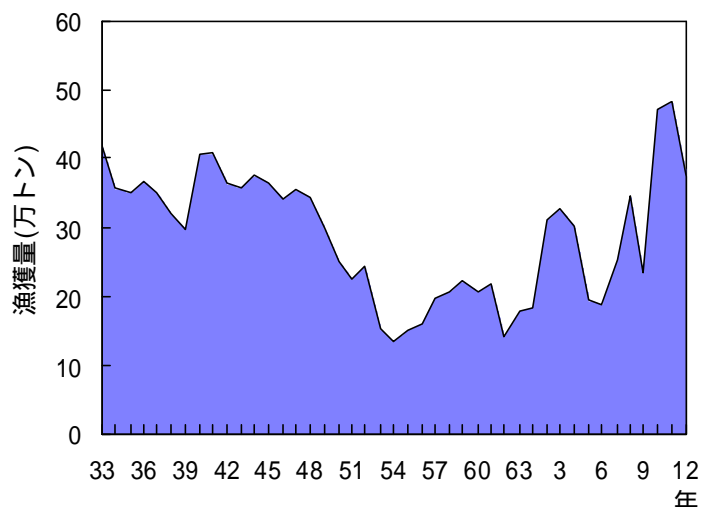


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 平成13年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の長島沖(7・8月)で漁獲がありました。

4港計では、340トンで前年及び平年の134%及び121%でした。7月に前年・平年を上回りました。

## 3. 平成13年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は中羽カタクチで、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

近年の漁獲量は高水準で推移していますが、月により漁獲量のばらつきが大きく、減少傾向にあります。

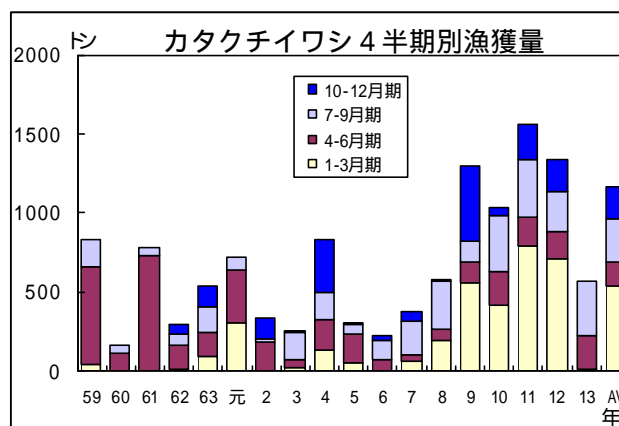
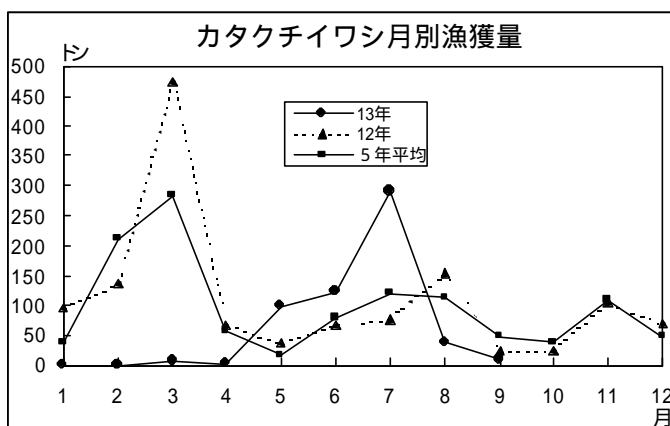


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年9月は19日までの水揚量を使用。

## [ その他の魚種 ]

### ムロアジ類 ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成13年7～9月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンにピークに減少傾向を示し、平成8年は3,108トン、平成9年はやや増加し3,853トン、平成10年は3,819トン、平成11年は2,299トンと減少し、平成12年は、昭和58年以降最低の1,819トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、7～9月期全体では239トンで前年及び平年の67%及び68%でした。

#### 2. 平成13年10～12月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

### オアカムロ ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成13年7～9月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンにピークに減少し、平成6年には1,823トンとなりましたが、その後は増加傾向となり、平成10年は3,413トン、平成11年は減少し2,076トン、平成12年は2,483トンとなりました。

主に薩南海域で漁獲があり、7～9月期全体では69トンで前年及び平年の8%及び17%でした。

#### 2. 平成13年10～12月期の見とおし

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

### マルアジ ( アオアジ ) ( 4 港計 )

#### 1. 経年変化及び平成13年7～9月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、平成2年以降低調に推移しましたが、平成7年には1,430トンに増加し、平成8年は1,083トン、平成9年は684トンと減少しましたが、平成10年は1,062トン、平成11年は再び減少し639トンでした。平成12年は、12年生まれ群の加入が順調で、1,867トンに増加しました。

主に北薩海域で漁獲があり、7～9月期全体では小マルアジ主体に249トンで前年及び平年の81%及び199%でした。

#### 2. 平成13年10～12月期の見とおし

来遊量は前年を下回り、平年を上回るでしょう。

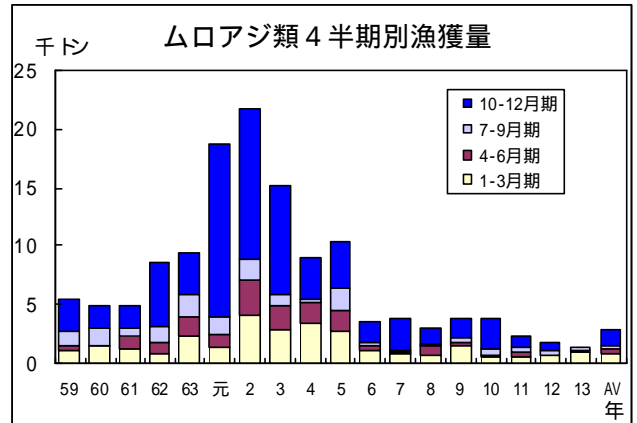
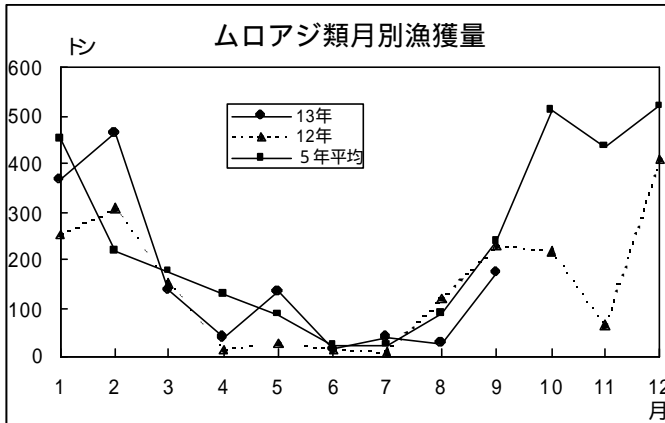


図 ムロアジ類漁獲量変化(4港計)

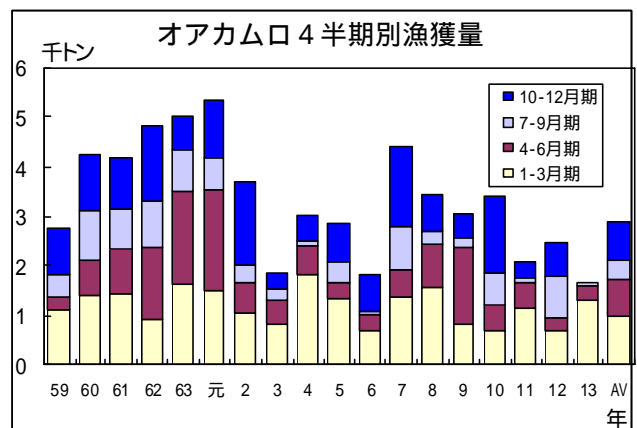
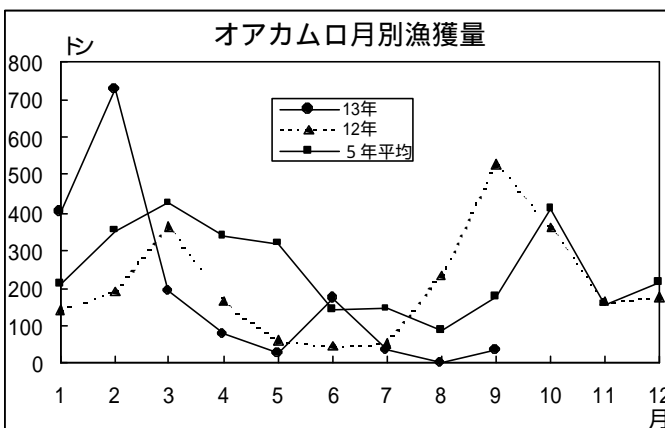


図 オアカムロ漁獲量変化(4港計)

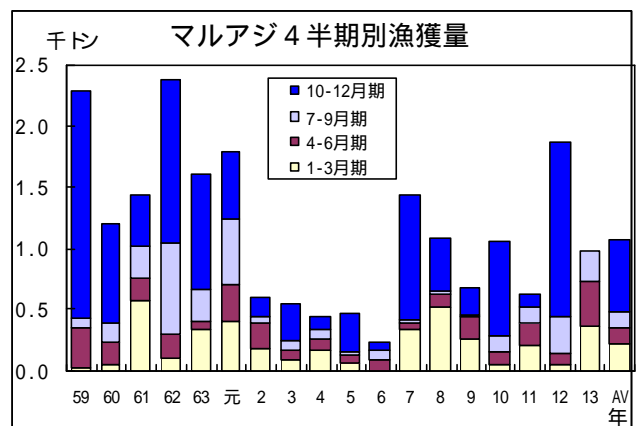
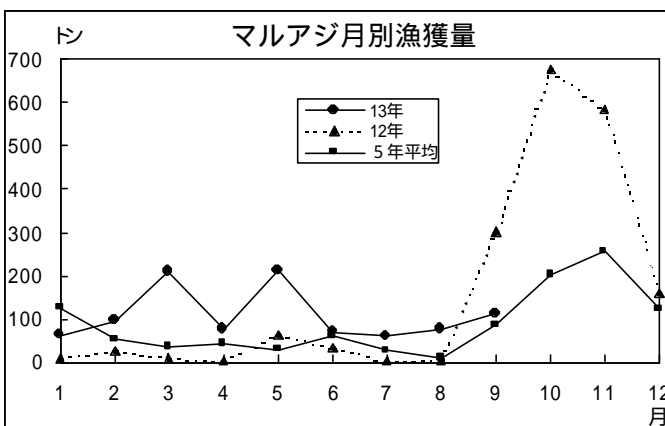


図 マルアジ(アオアジ)漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8~12年)の平均値,平成13年9月は19日までの水揚量を使用。